

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成28年4月7日 (2016.4.7)

【公開番号】特開2014-159648(P2014-159648A)

【公開日】平成26年9月4日 (2014.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2014-047

【出願番号】特願2013-29617(P2013-29617)

【国際特許分類】

D 0 6 P 5/00 (2006.01)

D 0 6 P 3/00 (2006.01)

D 0 6 P 5/20 (2006.01)

G 0 2 C 7/00 (2006.01)

【F I】

D 0 6 P 5/00 D

D 0 6 P 5/00 1 1 6 C

D 0 6 P 3/00 A

D 0 6 P 5/20 D

G 0 2 C 7/00

【手続補正書】

【提出日】平成28年2月19日 (2016.2.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

染色用基体に付着された昇華性の染料を、設置部に設置された樹脂体に蒸着させて定着させることで、前記樹脂体を染色する染色装置であって、

少なくとも前記設置部に設置される樹脂体の周囲を閉塞する閉塞室と、

前記閉塞室内の気圧を低下させる気圧低下手段と、

前記染色用基体に付着された前記染料を加熱する染料加熱手段と、

電磁波によって前記樹脂体を加熱する樹脂体加熱手段と、

前記染色装置の動作を制御する制御手段と、

を備え、

前記制御手段は、

前記気圧低下手段によって前記閉塞室内の気圧を低下させる気圧低下制御手段と、

前記染料が付着した前記染色用基体の付着面が、前記樹脂体に非接触で対向した状態で、前記気圧低下制御手段によって気圧が低下した前記閉塞室内の前記染色用基体に付着している前記染料を前記染料加熱手段によって加熱することで、前記染料を昇華させて前記樹脂体に蒸着させる蒸着制御手段と、

前記樹脂体の周囲の圧力を、前記蒸着制御手段による蒸着時の圧力よりも上昇させた状態で、前記染料が蒸着された前記樹脂体に前記樹脂体加熱手段から電磁波を照射することで、前記樹脂体を加熱して前記染料を定着させる定着制御手段と、

を備えたことを特徴とする染色装置。

【請求項 2】

電磁波を発生させる電磁波発生手段が、前記染料加熱手段および前記樹脂体加熱手段を兼ねることを特徴とする請求項 1 に記載の染色装置。

【請求項 3】

前記電磁波発生手段が前記閉塞室の外部に設けられていることを特徴とする請求項 2 に記載の染色装置。

【請求項 4】

前記閉塞室のうち、少なくとも前記設置部に設置された前記樹脂体と前記電磁波発生手段との間の部位に、前記電磁波発生手段によって発生される電磁波を透過させる透過部が設けられることを特徴とする請求項 3 に記載の染色装置。

【請求項 5】

前記樹脂体加熱手段によって加熱される位置から前記染色用基体を退避させる退避手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載の染色装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明に係る染色装置は、染色用基体に付着された昇華性の染料を、設置部に設置された樹脂体に蒸着させて定着させることで、前記樹脂体を染色する染色装置であって、少なくとも前記設置部に設置される樹脂体の周囲を閉塞する閉塞室と、前記閉塞室内の気圧を低下させる気圧低下手段と、前記染色用基体に付着された前記染料を加熱する染料加熱手段と、電磁波によって前記樹脂体を加熱する樹脂体加熱手段と、前記染色装置の動作を制御する制御手段と、 を備え、前記制御手段は、前記気圧低下手段によって前記閉塞室内の気圧を低下させる気圧低下制御手段と、前記染料が付着した前記染色用基体の付着面が、前記樹脂体に非接触で対向した状態で、前記気圧低下制御手段によって気圧が低下した前記閉塞室内の前記染色用基体に付着している前記染料を前記染料加熱手段によって加熱することで、前記染料を昇華させて前記樹脂体に蒸着させる蒸着制御手段と、前記閉塞室内の圧力を、前記蒸着制御手段による蒸着時の圧力よりも上昇させた状態で、前記染料が蒸着された前記樹脂体に前記樹脂体加熱手段から電磁波を照射することで、前記樹脂体を加熱して前記染料を定着させる定着制御手段と、 を備える。